

木島俊裕詩集

天命

T
e
m
e
i
K
i
j
i
m
a
T
o
s
h
i
r
o

木島俊裕

詩人	122
青木さん	118
我が弟へ	108
神聖受胎	106
夢	104
地球	100
あの人	96
あの一と	92
譲渡あるいは転居	86
シエリー	78
ミュウ	74
よいこ	72

人生	8
道	12
天命	16
春夏秋冬	28
宇宙	32
ことば	36
先生	40
風と雲	44
彗星	48
この世	50
生き	54
こねこ	58

天命

人生

私はどこから来たのだろうか

雨が空から降ってくるのを

いつまでも飽きずに眺めていた

私はどこへいくのだろうか

夜の闇の片隅をじっとみつめ

自分が消えた後の世界を思い浮かべていた

私はいつたいたいだれなのだろうか

ごみ溜めのように薄汚れたロンドンの街並みが

理由もなくなくなつかしくて涙が頬を流れおちた

ナニカヲスルタメニヤツテキタノダ

この世界は仮の世で流れゆく浮世だシヤイン仮象だ

われわれは実在イデアの世界から派遣されてきたのだ

とささやく声が聞こえる

そうして私は生きた

今日を限りのいのちの蠟燭を灯しつづけた

求めれば与えられると信じ

がむしゃらに

ひたむきに

誰かにせかされるように

自分のためだけに

自らを磨くためだけに

私は生きた

芋虫キタビラのように歩きつづけた

多くのものを蹂躪ふみこじし

周囲まわりの人々を犠牲にして

五十年がすぎた

道

天上には道がある

地上にも道がある

嘘をついてはいけない

自分に正直であること

まことの道がある

ただしい道がある

盗んではいけない

姦淫してはいけない

道を求めなさい

道を踏み外してはいけない

ただしく考えること

ただしく見つめること

まっすぐに歩きつづけることだ

道はかならず道につながっている

荒野はいつかは豊饒の海となり

海は割れて約束の地への道になる

迷わずに歩きつづけることだ

道は決してあなたを裏切らない

迷える羊はきつと最後の審判の日に

真実の羊飼いが発見してくれる

と囁く声が聞こえる

でもその道が見えないのだ

どこにあるかもわからないのだ

わからないままに歩きつづけて
五十年が経たってしまった

天命

I

僕の道はどこから続いてきてどこに
続いてゆくのだろうかと考えて
もう一万年も過ぎてしまった
生まれる前の人生について
死んだ後の人生について
懐かしい地上の思い出があふれる

いまから一万年前にはアトランティスにいて
とても悲しい深い後悔が焼きついて忘れられない
王様に国外追放もされたし
無実の罪で刑務所で銃殺もされた
山奥でたったひとり水墨画を描いていた
といわれたこともあるが記憶が定かではない
ずっと地球人として
人類の進化と平和を願って生きてきたけど
地球人じゃないよ、という人がいてびっくりした